

「定点観察会の復習～ドクツルタケの仲間～」

2011年7月19日

文 幸徳伸也

今までの通信はキ/コをはじめた方のためのものです。
今回の通信は、キ/コ中級者向けの通信となります。
細かい用語解説はしません。
少し、気を引き締めてご覧ください

7月17日の定点観察会で「ニオイドクツルタケ」と同定したキ/コがありましたね。
今回はそれにまつわる猛毒の「ドクツルタケの仲間」のお話です。
難しいですよ～。



定点で採取されたニオイドクツルタケ
よく見るとアケボノドクツルタケも混じっていたかもしれません。
すいません。
う～ん、難しい～

私は同定台にてドクツルタケの仲間を「ニオイドクツルタケ」と同定しました。

ただ、そのときに

「ニオイドクツルタケって何？」

「なんでドクツルタケではないの？」

「ドクツルタケと何が違うの？」

と思われたかたはきっと多かったと思います。

結論から申しますが、神戸周辺ではドクツルタケとされている *Amanita virosa* は“無い”可能性が高いです。

神戸周辺にあるのは、「ニオイドクツルタケ」と「アケボノドクツルタケ」の2種がほとんどではないかと推測しています。

まず、今までドクツルタケとしていたキノコはどんな特徴があるのでしょうか？

図鑑に掲載されているドクツルタケの特徴をまとめると以下のようになります。

- ①傘・柄が白色、傘の中心は白色でないこともある
- ②柄が大なり小なりささくれる
- ③つぼ・つぼがある
- ④傘に条線はない

①～④のような特徴を持つテングタケの仲間は観察会ではすべてドクツルタケと同定していました。

実際、図鑑でもドクツルタケと掲載されています。

ただ、ドクツルタケは色々なバリエーションがあることは以前から話題になっていました。

それで、研究者の方が①～④の特徴を持つドクツルタケとしていたキノコをよく観察しました。

すると、やっぱりいくつか種類が混じっているということがわかりました。

そこで、その研究者は以下の3種にわけました。

ドクツルタケ *Amanita virosa*

ニオイドクツルタケ *Amanita oberwinklerana*

アケボノドクツルタケ *Amanita subjunquillea* var. *alba*

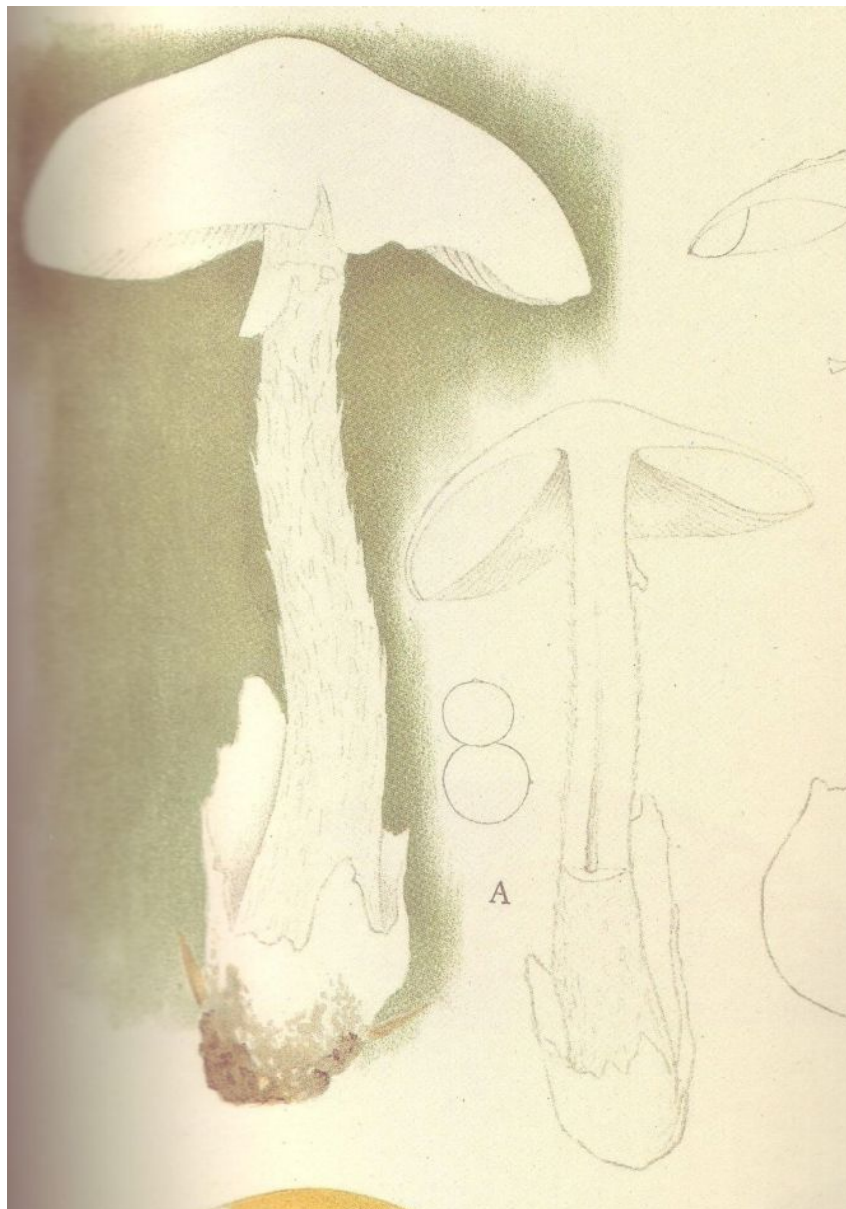
この3種を見分ける大きなポイントは以下の4点です

- ①KOHを肉に滴下した時の変色性
- ②傘の色
- ③柄のささくれの大小
- ④胞子の形

違いをまとめるとこんな感じです

	ドクツルタケ	ニオイドクツルタケ	アケボノドクツルタケ
KOH	黄変する	黄変しない	黄変する
柄の表面	顕著にささくれる	顕著にささくれる	あまりささくれない
孢子	類球形	長楕円形	類球形
傘の中心の色	白色	白色～淡黄土色	ピンク～淡黄土色

ドクツルタケ



ヨーロッパの菌学者のランゲが描いたドクツルタケ

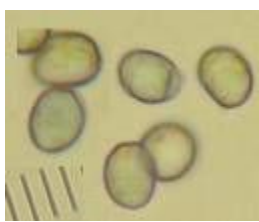
ニオイドクツルタケ



長沢先生がニオイドクツルタケと同定したキノコ



過去の定点でニオイドクツルタケと同定したキノコ



胞子は長楕円形、KOHで黄変しない



柄の表面はささくれる

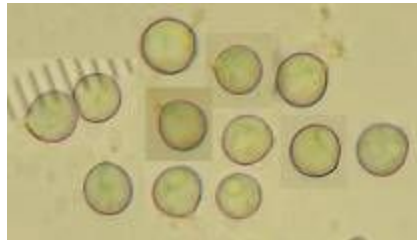
アケボノドクツルタケ



過去の定点でアケボノドクツルタケと同定したキノコ



柄の表面はあまりささくれな
い



傘中心は帯黄色、胞子は類球形、KOHで黄変

私がニオイドクツルタケと同定したのは、以前同定したときの気づいた個体の情報がもとになっています。

それはつぼの形です。

ニオイドクツルタケはつぼの形がつぼが柄に癒着するよう感じます。

癒着するというと誤解がありますが、つぼが柄に沿う感じます。

ドクツルタケは柄に癒着していないようです。



その柄に癒着するつぼの形を見て、「ニオイドクツルタケ」と同定しました。

ただ、ここで1つ大きな間違いがありました。

アケボノドクツルタケは柄に癒着しないと思っていました。

しかし、そうではなく癒着します。

帰ってから過去の写真を確認してわかりました。

さて、一番1ページ目の写真をご覧ください。

定点で同定したニオイドクツルタケの写真を見ると中には傘の中心が黄色いものがありますね。

とすると、アケボノドクツルタケが混じっていた可能性が高いです。

傘が黄色いものはよくみると柄があまりささくれていないように見えませんか？

アケボノドクツルタケの柄はあまりささくれません。

そのキノコはきっとアケボノドクツルタケのような気がします。

う～ん、難しいですね～

そんな難しいドクツルタケの仲間です。

「そんなのは難しくて見分けることができません」

そんなときは一体どうしたらいいのでしょうか？

それは

「ドクツルタケの仲間」

と同定しましょう。

この通信を読んだ方は、安易に「ドクツルタケ」と言い切ってははいけませんよ。

ドクツルタケと言い切るためには色々な試験があるのは、すでにわかっていますよね。

「ドクツルタケの仲間」とすると何かすっきりしませんが、これがキノコの難しいところです。

さあ、これから皆さんがドクツルタケの仲間を見つけたときはどうしますか？

①ドクツルタケ、ニオイドクツルタケ、アケボノドクツルタケの3種を見分けられるように詳しく調べる

②ドクツルタケ、ニオイドクツルタケ、アケボノドクツルタケの3種を「ドクツルタケの仲間」として一括りにしてしまう

決して、どちらが良い悪いというのはありません。

ドクツルタケの仲間には数種あるとわかって、どんなものでも「ドクツルタケ」と安易に同定しなくなれば十分だと思います。

と、今まで偉そうに解説していますが、私もまだまだ、ドクツルタケの仲間は自信がなく手探り状態の同定です。

今回の定点の同定のように間違っている場合もあります。

いずれにせよ、見分けられたとしても、ドクツルタケの仲間はいずれも猛毒であることは変わりありません(^ ^)

きのご持りをされる方は十分注意してください